

次世代型DRを導入

来月末メド 中長距離運行の58両に

関西陸運

【香川】関西陸運（吉本直社長、高松市）は3月末までに、中長距離運行の58両にLuna（早野喜十郎社長、東京都港区）の次世代型ドライブレコーダー（DR）を導入する。記録した映像やデータを基に、Lunaがドライバールートの運行実態をチェックし、きめ細かいコンサルティングを行うのが特徴。他メーカーのDRより割高だが、より効果的な事故防止対策を狙った。

衝撃を受けた時にのみ撮影する従来型のDRは、小さな段差などにも反応することがあり、不用なデータが蓄積される問題点が指摘されてきた。LunaのDRは最新の動画圧縮技術を使い、走行中の全ての状況を最大24時間録画し、ヒヤリ・ハットなど大切な映像を逃さずに記録する。記録されたデータはLunaが編集や解析を行い、ドライバールートの運転傾向や課題点などを割り出す。

関西陸運では、1台につき2回のコンサルティングを受ける予定。最初はドライバールの運転傾向についてアドバイスを受け、半年後の2回目で改善状況を確認する。来年度は小型車や近距離輸送車70両にも取り付け、全保有車に導入する計画。吉本社長は「昨年はデジタルタコグラフを全車に装着したが、デジタルだけではドライバールートが言い訳することも考えられる。DRと組

2011年2月28日
物流ニッポン新聞社

み合わせることで、運行管理の精度を上げていきたい」としている。